

「それっぽく」しない

吉川暁大

●研修参加の経緯

1年前にこの研修の報告会を聞いたとき、先輩方の姿は、自分とはまったく違う世界にいるように思えた。ただただ表面をうまく塗られたのではなく、まるで、内側から何か新しいものが生み出されているかのようだった。そんな先輩方に憧れ、「生き様研修」という初めて聞く名前の研修に、自ら足を踏み入れたのだった。誰一人として同じものであるはずがない「生き様」というものを学んでみたかった。

●学んだこと

1. 「それっぽい」で終わらせない

今回の研修で「マジックワード」という言葉を習った。例えば、「世界的な」や「～のような」といった言葉だ。この言葉を使えば、すべてのことが「それっぽく」になってしまうのだ。お偉いさんたちが使うのも同じ理由。肯定派、否定派の両方に「それっぽく」伝えることができる。しかし、それではいけない。今最も大切なのは、物事の核心を探ることだと考える。曖昧にして、終わらせない。深く深く探る、この過程にこそ、自分を成長させるカギが隠れていると私は思う。

2. 海外から日本を見る

この研修に来てみて、世界を見るだけではなく、外側から日本を見る良い機会となった。イギリスで話したすべての人に対して、日本についてどう思っているのかを尋ねた。その中には、自分の考えとは全く異なるものもあり、非常に面白かった。日本の教育について、自分は詰め込み教育をあまりよくないと思っていた。しかし、向こうの人は、その制度は非常に素晴らしいものだと言っていた。また、日本の戦争の歴史の教え方についての意見には本当に驚いた。ある人は「日本は結局のところ、アメリカは怖い国だからもう喧嘩するなよと、70年かけて教え込んできただけ」と言った。世界にはいろいろな考えを持った人がいることは、もちろんわかっていた。そうはいっても、こんなことを言う人がいるとは思わなかった。ただ、この人こそが、将来自分が目指す人なのかもしれないと思った。周りの情報を鵜呑みにするのではなく、自分で変形してからインプットする人。「この研修に来てよかった」と初めて思った瞬間でもあった。



●まとめ

今回の研修で得たものは何だろうか。自分の中に何かしらは得ることができたと思っている。だが、それを言い表すのはなかなか難しい。自分の国語力の低さももちろんあると思う。ただ、何年先でもいい、もしかしたら社会人かもしれない、そんなある時、これを言い表すことができるようになったら、この研修の本当の成果が感じられるのだと思う。

しかし、成果がありませんでしたとは、言うことのできないような研修だった。だから、自分からこの研修に意義を持たせようと思う。この研修に参加したからといって、必ずしも大きく成長できるわけではない。この研修は、あくまで1つの大きな獲物であり、これをどのように処理するかによって、この研修の意義は大きく変わってくる。今回の研修で、多種多様な「生き様」を学んだ。、そうはいっても、他人の物がただ単に中にあるだけでは、「それっぽい」になってしまう。自分の仕事はそれをどのように処理するか。「それっぽくないもの」をつくることである。



これは非常に難しいことだ。その中で、今回の研修で「それっぽいもの」を持ち帰れたことは大きな成果である。果たして、この後、どう処理しようか。それはまだ決めていない。それでも、これだけは人に頼らないでやってみようと思う。大人への階段を上っていくにつれて、自分でやらなくてはいけないことはどんどん増えてくる。1人でやることの大変さは今回の研修で知った。1人でできることの達成感も知った。「それっぽい」大人になるんじゃなくて、本当の大人になりたい。この願いが叶うかは自分次第だ。

●感謝

今回の研修に参加するにあたって、多くの人に協力していただきました。資金面での両親からの支えはもちろん、この研修を企画してくださった、校長先生をはじめとする教職員の先生方、ISAの松井さん、ハートフォードカレッジの方々、ほんとうにありがとうございました。いつかこの経験をあなた方へ良い形でお返しできるように、これからの人生を歩んでいきたいと思えます。

●5期生へ

おそらく来年の研修に参加したいと考えている人もいると思う。この報告書に、経験してきたことすべてを書く記すことは不可能だ。ぜひあなたたちには、この経験を味わってほしい。

そして、言葉に表せなくてもいいから、何かを得たという実感をもってほしい。